

# 第3次あま市行政改革大綱（素案）



あま市

## 目次

第1章 行政改革の背景	1
1. これまでの行政改革の取組み	1
2. あま市行政をとりまく環境変化	6
3. 行政改革継続の必要性	7
第2章 第3次あま市行政改革大綱の基本方針	14
1. 大綱の位置付け	14
2. 計画期間	15
3. 第3次あま市行政改革大綱の体系図	16
4. 基本方針	17
第3章 計画の推進体制と進捗管理	20

# 1章 行政改革の背景

## 1. これまでの行政改革の取組み

### (1) 本市の行政改革の取組状況

行政改革とは、時代に即した行政需要に的確に対応し、市民サービスの一層の向上を図るために、組織、制度や行政運営のあり方を見直し、行財政運営の適正化・効率化を図っていくことです。

本市では、平成 23 (2011) 年 2 月に第 1 次あま市行政改革大綱、平成 27 (2015) 年 3 月に第 2 次あま市行政改革大綱を策定して、行政改革に取り組んできました。

第 1 次、第 2 次大綱ともに具体的な行政改革を実施するために、個別取組項目を設定し、目標を定めて取組みを実施してきました。

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
第 1 次あま市行政改革大綱													
第 2 次あま市行政改革大綱													

## (2) 第2次あま市行政改革大綱の取組実績

第2次大綱では、3つの基本方針に基づく6つの柱を掲げ、これらの柱に掲げる項目を具体的に実施するために、31項目の個別取組項目を設定して行政改革に取り組んできました。

**令和4年度末に、改めて取組実績をとりまとめ、記載します。**

第2次大綱個別取組項目 取組結果

行政改革の6つの柱	個別取組 項目数	目標 達成済	取組中	その他 (※)
① 協働によるまちづくりの推進	3			
② 中長期的な財政運営の健全化	9			
③ 事務事業の見直し	9			
④ 施設の総合的な管理と見直し	4			
⑤ 組織・機構の見直しと定員の適正化	2			
⑥ 人材育成と職員の意識改革	4			
計	31			

※ 状況変化により、取組みを中止したもの等

### ① 協働によるまちづくりの推進

市民や各種団体など地域を構成する各主体が協働し、対等な立場で取り組んでいける仕組みを充実させ、協働によるまちづくりを推進しました。

<主な取組実績>

- ・市民公募委員の登用推進

各課所管の審議会・委員会等への市民委員の登用

令和3(2021)年度 市民委員登用者数 16名

- ・市民活動の情報提供

市民活動団体などに関する情報発信、市民活動ガイドブックの見直し

令和3(2021)年度 市民活動協働ガイドブック Jr版(小学校中学年向け)・Young版(小学校高学年向け)を活

用した総合学習の授業を実施

- ・市民活動補助金制度の活用

補助金制度の活用による市民活動団体の育成・支援

令和3（2021）年度 補助金交付実績 1団体・89千円

## ② 中長期的な財政運営の健全化

健全な財政運営を維持するため、市税を始めとする財源を着実に確保しながら、企業誘致を推進するなど、新たな財源確保の方策について実施、検討しました。

<主な取組実績>

- ・収納率の向上対策

滞納者に対する差押等滞納処分や、未納者への納付相談を実施

令和3（2021）年度 市税収納率 現年度分 98.3%  
過年度分 21.7%

- ・広告料収入の積極的確保

市公式ウェブサイトや封筒などの活用や、新たな広告媒体の検討

令和3（2021）年度 広告料収入額 2,654千円  
あま市巡回バス車体広告を導入

- ・企業誘致の推進

企業等の誘致に向けた取組みを実施

令和3（2021）年度 方領地区の工業団地整備に向けた、地権者からの開発同意書の取得  
創業支援セミナーの実施 1回

- ・遊休資産（土地等）の有効活用・処分の検討

処分可能な遊休資産について、売却・貸付等を検討

令和3（2021）年度 土地（1か所）について購入希望者へ説明

## ③ 事務事業の見直し

事務事業の効果、効率性や行政関与の必要性を検証し、最も効率的な事務事業となるよう再編に取り組むことで、市民サービスの向上を図りました。

#### <主な取組実績>

- ・事務事業点検の実施

実施計画策定及び予算概算要求についての全庁ヒアリング時に事務事業点検を行い、評価結果を翌年度の予算編成に反映

毎年度実施

- ・“AMACT ION”業務改善運動

若手職員から業務改善効果がある取組みを募集し、優秀な取組みを実施

令和3（2021）年度

実施内容

庁内の混雑状況の発信

AIチャットボット（対応ツール）の活用

WEB会議の導入 など

#### ④ 施設の総合的な管理と見直し

合併による重複施設や未利用施設を中心に施設の再編を図りながら、老朽化に対応した計画的な予防保全を進めるなど、長期的・総合的な管理を行うことで、将来にわたる財政負担の平準化を図り、健全な財政運営を持続できる仕組みの構築を進めました。

#### <主な取組実績>

- ・長期的・計画的な公共施設及びインフラ資産の管理

あま市公共施設再配置計画に示された公共施設の維持管理方針を踏まえ、施設の計画的な長寿命化や統廃合を実施

毎年度実施

- ・公共施設の管理経費の節減

電気料金の削減など、経費節減につながる方策を検討・実施

令和3（2021）年度

新電力の導入による本庁舎電気料金の削減

平成26（2014）年度比 ▲1,510,016円

#### ⑤ 組織・機構の見直しと定員の適正化

新たな行政課題や多様化する市民ニーズに対応できる行政組織を構築するため、組織・機構の見直しを行うとともに、定員適正化計画を見直し、職員数の適正化に努めました。

<主な取組実績>

- ・効率的な行政運営を目指す組織・機構の見直し  
効率的な行政運営ができるよう組織・機構の見直しを実施  
令和3（2021）年度 産業振興課農政係を農政課に、同商工観光係を  
商工観光課にする組織改編を実施
- ・定員管理の見直し  
第2次あま市定員適正化計画の見直し  
令和3（2021）年度 職員数 547人  
(令和元（2020）年度 551人)

⑥ 人材育成と職員の意識改革

変化に対応できる職場環境を構築し、行政経営についての意識改革や能力開発を推進することで、職員の資質の向上を図りました。

<主な取組実績>

- ・女性活躍の推進  
女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画の見直しや各審議会等への女性委員の登用を推進  
令和4（2022）年度 女性管理職割合 19.5%  
審議会女性委員割合 27.2%
- ・職員研修の推進  
職員のキャリア等に応じた職務遂行に必要な知識や技術の習得  
毎年度実施

## 2. あま市行政をとりまく環境変化

第2次あま市行政改革大綱の策定から7年が経過した現在、社会情勢が変化しており、本市の行政をとりまく環境も大きく変化してまいりました。

令和3（2021）年9月にはデジタル庁が設置され、デジタル社会の形成・進展に向けた取組みが急速に進んでいます。

また、少子高齢化や、育児・介護等と仕事との両立に対するニーズの高まりを背景にした「働き方改革」の取組みや、女性活躍の推進に向けた取組みが広がっています。

さらに、世界的に流行した新型コロナウイルス感染症は、経済活動や市民生活に大きな変化を与え、行政活動においては柔軟な対応が求められています。

一方で、生産年齢人口の減少などに伴い、今後の税収に大きな伸びが期待できない中で、社会保障関係経費の増大や、老朽化が進む公共施設やインフラの維持管理などのため、今後も厳しい財政運営が見込まれています。

とりわけ、本市においては令和2年度に地方交付税の合併特例措置が終了したことにより、これまで以上に財源の確保に取り組んでいく必要があります。

令和5（2023）年5月に予定している新庁舎への移転は、各庁舎に分かれている行政機能が集約されることによる仕事のあり方の見直しや、市民サービスの変更など、本市の行政に大きな環境変化をもたらします。

### 3. 行政改革継続の必要性

少子高齢化など社会情勢が大きく変化し、見通しが難しい中で、老朽化が進む公共施設等の適正な管理や、市民ニーズの多様化、デジタル社会の進展への対応など、様々な課題に対処していかなければなりません。

そのためには、限られた経営資源（財源、資産、人材）で一層効率的・効果的な行政運営が求められています。

特に本市の財政は今後も厳しい状況が続くことが見込まれますが、社会保障関係経費の増加に対応しながら、本市の魅力・活力を引き出す都市基盤整備や新たなまちづくり施策を推進しつつ、将来に負担を残さない持続可能な財政運営を図っていく必要があります。

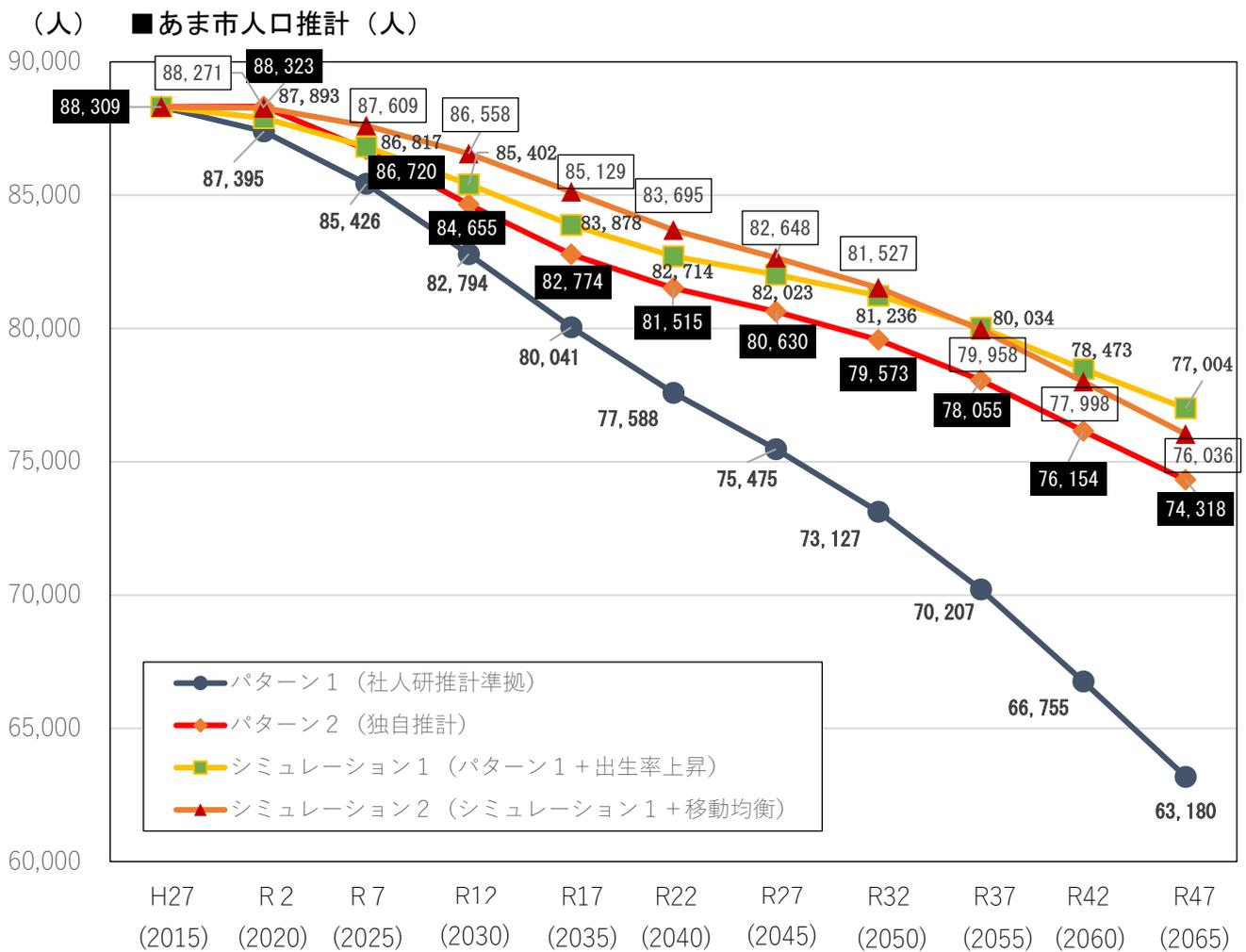
一方で、コロナ禍によって社会生活に大きな変化が生じており、職員の仕事の進め方や働き方を見直し、ワーク・ライフ・バランスの実現を促しながら、組織として、頻発する災害や感染症など様々な有事や社会変化に柔軟に対応できる体制づくりが必要です。

また、新庁舎への移転は、仕事のあり方を見直す契機でもあり、ICTを活用した業務効率化を推進し、市民の期待に応えられるよう行政サービスの向上に取り組んでいく必要があります。

これらの様々な課題を解決していくためには、引き続き、全庁一丸となって行政改革を推進していく必要があります。

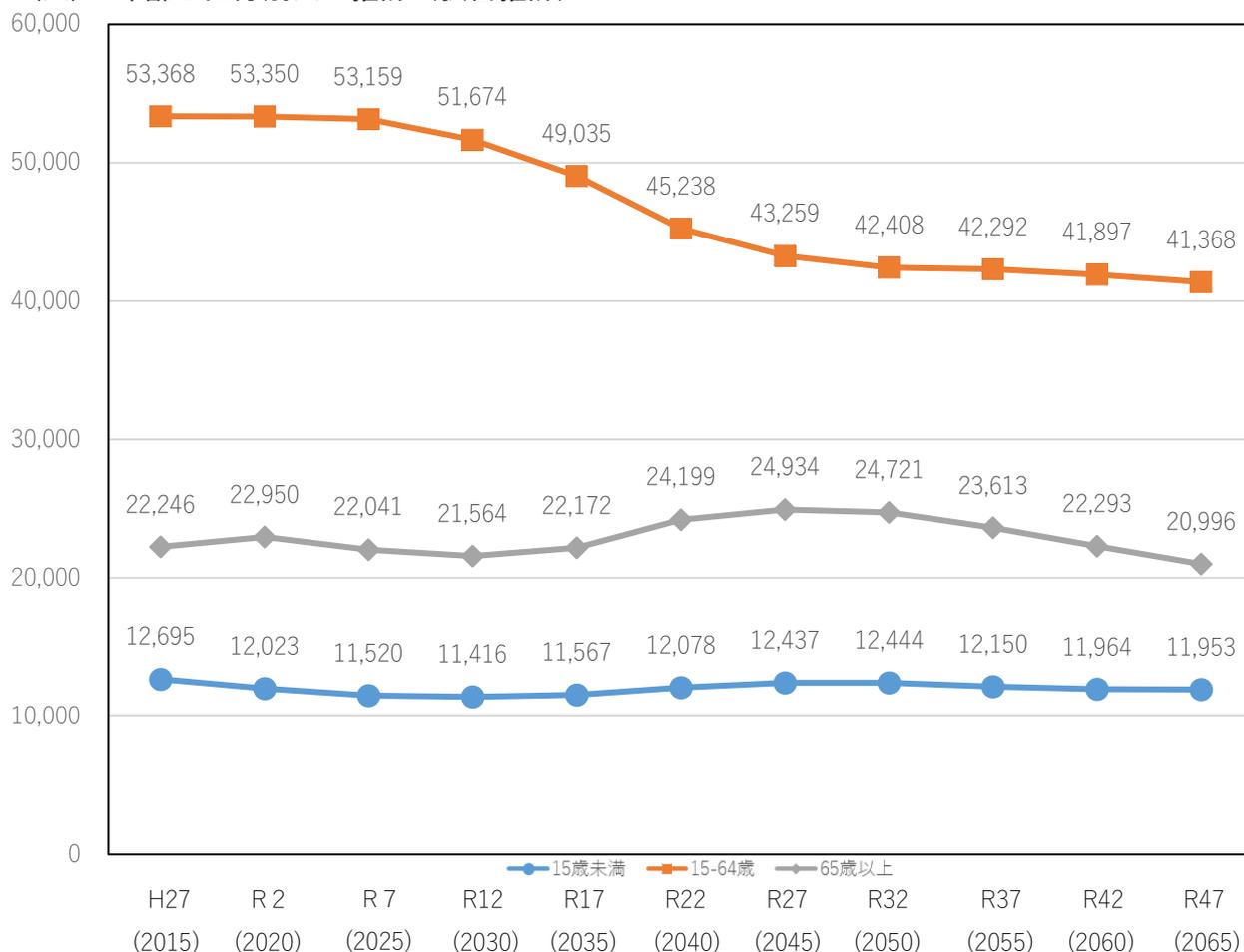
## ○ あま市の人口動向

国勢調査における本市の人口は、平成 27 (2015) 年をピークに減少しており、あま市人口ビジョン (令和 2 (2020) 年 3 月改訂) における独自推計 (下図の「パターン 2 (独自推計)」) では、令和 42 (2060 年) には人口が約 76,000 人となり、平成 27 (2015) 年と比較して約 14%減少するものと見込まれています。



また、年齢別では、当面、65歳以上の老年人口が増加し、15歳から64歳までの生産年齢人口の減少が推計されており、社会保障関係経費の増加や税収の落ち込みが予想されます。

(人) 年齢3区分別人口推計(独自推計)



○ 本市の財政見通し

(1) 歳入歳出の見通し

○中期財政計画《一般会計分》

(単位：百万円、%)

区 分		令和3 (2021) 年度	令和4 (2022) 年度	令和5 (2023) 年度	令和6 (2024) 年度
歳 入	市 税	10,159	10,686	10,835	10,795
	地方譲与税、交付金等	2,415	2,477	2,503	2,538
	地 方 交 付 税	4,144	4,720	4,720	4,769
	国 ・ 県 支 出 金	7,190	7,336	7,153	6,992
	繰 入 金	1,671	1,960	1,294	873
	繰 越 金	245	246	246	246
	市 債	4,068	5,917	2,320	1,936
	そ の 他 の 歳 入	1,283	2,874	1,386	1,386
	歳 入 合 計	31,175	36,216	30,457	29,535

歳 出	義 務 的 経 費	人 件 費	5,228	5,330	5,311	5,327
		扶 助 費	7,939	8,229	8,327	8,427
		公 債 費	2,145	2,115	1,999	2,031
		小 計	15,312	15,674	15,637	15,785
	物 件 費	5,091	5,277	5,082	4,733	
	維 持 補 修 費	141	138	138	138	
	補 助 費 等	4,119	3,699	3,726	3,838	
	積 立 金	2	1,389	3	3	
	投資及び出資金、貸付金	88	88	88	88	
	繰 出 金	2,970	3,092	3,110	3,164	
	普 通 建 設 事 業 費	3,452	6,859	2,673	1,786	
	歳 出 合 計	31,175	36,216	30,457	29,535	

年 度 末 市 債 残 高	24,168	28,234	28,637	28,631
年 度 末 基 金 残 高	5,887	4,621	4,129	4,058
実 質 公 債 費 比 率	6.7	7.3	7.6	7.7
将 来 負 担 比 率	39.4	61.9	68.6	69.7

※あま市中期財政計画（令和3（2021）年度ローリング版）より抜粋

## (2) 地方交付税の交付状況と財政力指数

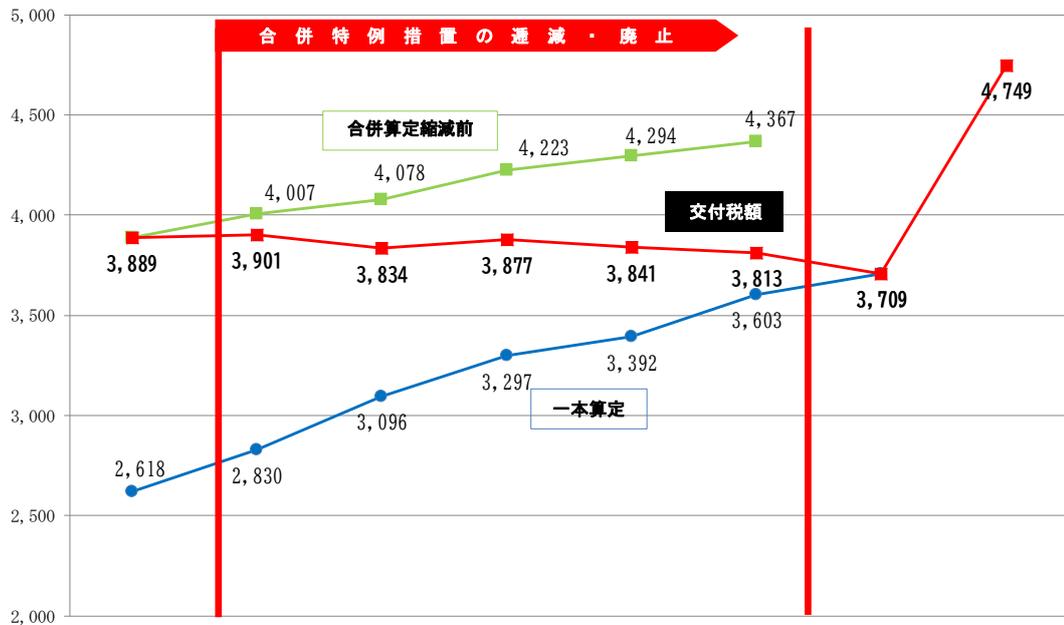
地方交付税のうち普通交付税の合併特例措置が平成 27（2015）年度から段階的に縮小し、令和 2（2020）年度に終了しています。

財政力指数は、地方公共団体の財政力を示す指数として用いられるもので、数値が大きいほど財政が豊かであることを示しており、財政力指数が 1 以上になると、地方交付税の不交付団体となります。

本市の財政力指数は、1 を下回っており、地方交付税の依存度が高い状況が続いています。

地方交付税の交付状況と財政力指数

（単位：百万円）



年度	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
財政力指数 (あま市)	0.78	0.78	0.77	0.76	0.75	0.75	0.74	0.72
財政力指数 (愛知県平均)	0.96	0.97	0.99	1.01	1.01	1.01	1.00	

(注) ※合併算定縮減前…合併がなかったものとして合併前の旧市町村ごとに算定した普通交付税の合算額

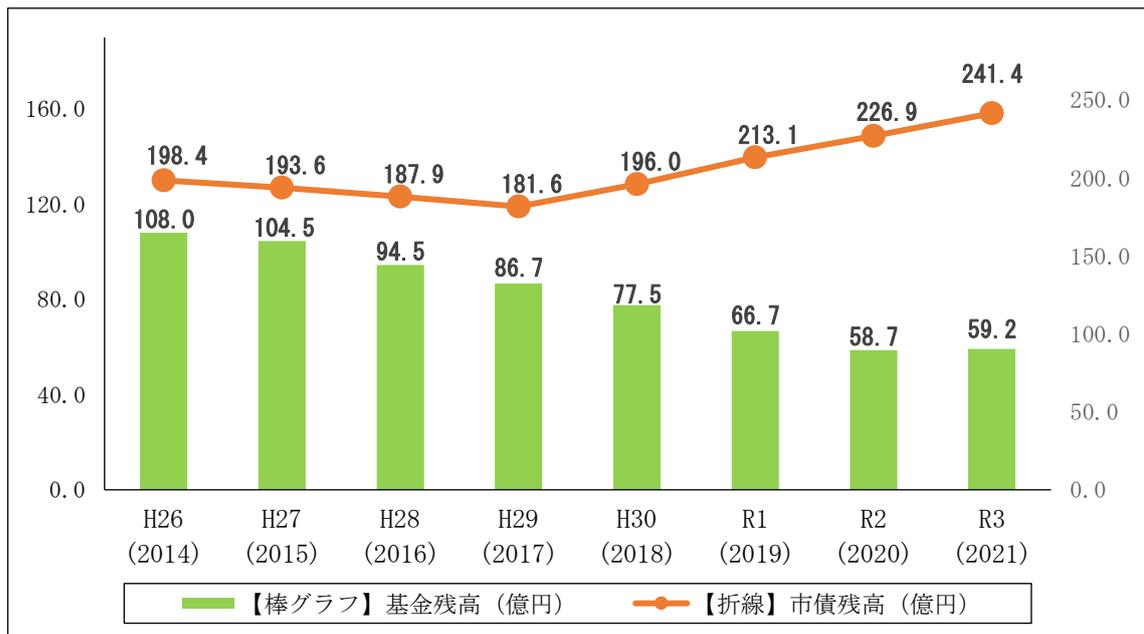
※一本算定…合併後の新市として算定した普通交付税額

※令和 3（2021）年度の普通交付税額は新型コロナウイルス感染症の影響に伴う市税の減収や、国の補正予に伴い追加交付を受けたことなどにより、令和 2（2020）年度比で大きく増額している。

### (3) 基金残高と市債残高

新庁舎や給食センターなど公共施設の整備等に伴い、近年は市の借金である市債の残高が増加している一方、市の貯金である基金については減少傾向となっています。

基金残高と市債残高

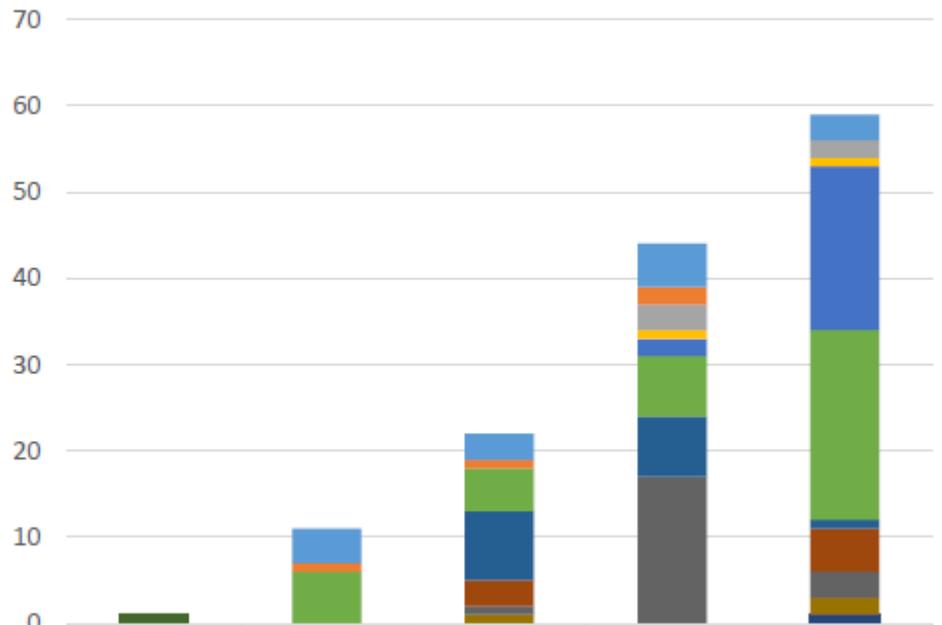


### ○ 公共施設の状況

公共施設については、昭和 40 (1965) 年代から 50 (1975) 年代に建設されたものが多く、137 施設のうち、103 施設が設置後 30 年以上を経過しています。

その中でも特に子育て支援施設、学校教育系施設の老朽化が激しく、設備を含めた大規模な改修が必要となっています。

あま市の公共施設の用途別建築経過年数



	9年以下の施設	10年以上19年未満の施設	20年以上29年未満の施設	30年以上39年未満の施設	40年以上の施設
■ 市民文化系施設	0	4	3	5	3
■ 社会教育系施設	0	1	1	2	0
■ スポーツ・レクリエーション施設	0	0	0	3	2
■ 産業系施設	0	0	0	1	1
■ 学校教育系施設	0	0	0	2	19
■ 子育て支援施設	0	6	5	7	22
■ 保健・福祉施設	0	0	8	7	1
■ 行政系施設	0	0	3	0	5
■ 公営住宅	0	0	1	17	3
■ 上水道施設	0	0	1	0	2
■ 下水道施設	0	0	0	0	1
■ 病院施設	1	0	0	0	0

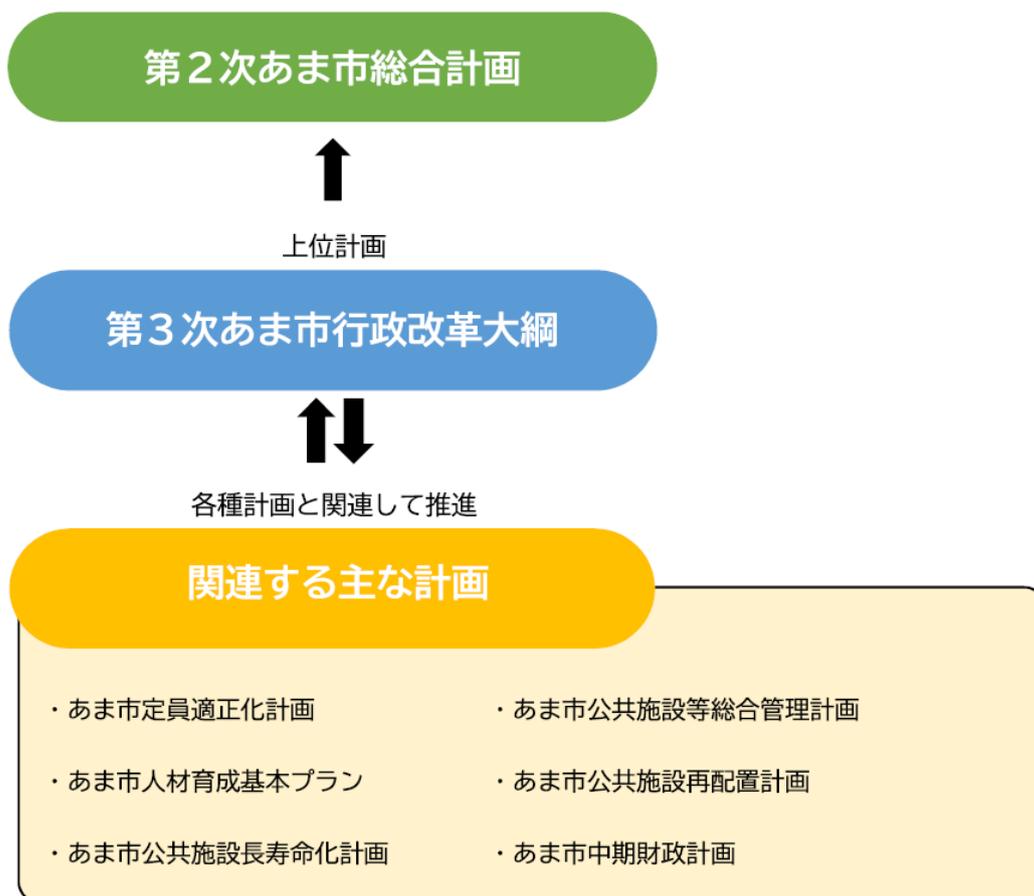
103 施設が設置後 30 年以上経過

## 第2章 第3次あま市行政改革大綱の基本方針

### 1. 大綱の位置付け

第3次あま市行政改革大綱は、第2次あま市総合計画に基づく施策の総合的かつ計画的な推進を下支えする様々な下位計画の1つとして位置付けます。

また、行政改革の取組みと関係する各種計画と相互に関連しながら、計画を推進します。



## 2. 計画期間

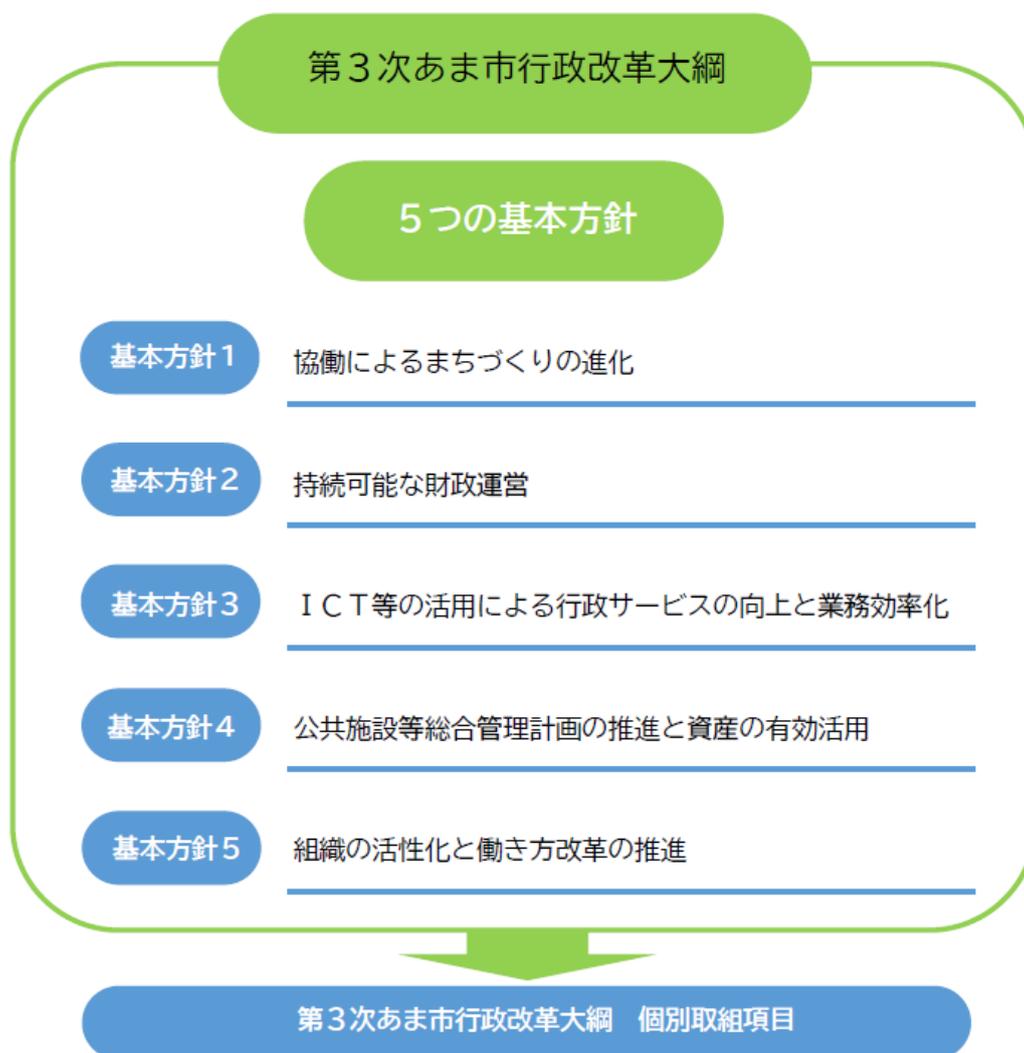
計画期間は、第2次あま市総合計画との整合性を図り、令和5（2023）年度から令和9（2028）年度の5年間とします。

年度	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13	R 14
	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032
第2次あま市総合計画	第2次あま市総合計画 基本構想 (10年間)										
	前期基本計画 (5年間)					後期基本計画 (5年間)					
第3次あま市行政改革大綱	第3次あま市行政改革大綱						次期大綱				
	個別取組項目						次期 個別取組項目				

### 3. 第3次あま市行政改革大綱の体系図

本市をとりまく環境変化や行政改革継続の必要性に対応しながら、幅広い視点から行政改革に取り組めるように、第3次あま市行政改革大綱の具体的な取組みの方向性となる5つの基本方針を、以下のとおり設定します。

また、各基本方針に基づく個別取組項目を設定します。



## 4. 基本方針

### 基本方針 1 協働によるまちづくりの進化

複雑・多様化する地域課題を柔軟に解決するため、市民や各種団体などとの協働の推進や企業・大学との連携事業の推進など、多様な主体がそれぞれの特性や強みを活かし、互いに協力し合ってまちづくりを進めます。

また、市民との意見交換会やパブリックコメントなどから得た市民の声を各種施策へ反映させるなど、市民ニーズを的確にとらえる仕組みを充実します。

今後、更なる「協働」によるまちづくりの推進がされるよう、引き続き情報提供や支援を行うとともに、担い手の育成など、市民が主体的にまちづくりに参画できる環境を整えます。また、様々な主体との協働の形態や可能性を追求し、発展させるための取組みを推進します。

### 基本方針 2 持続可能な財政運営

合併から10年が経過し、令和2年度に普通交付税の合併特例措置が終了しました。また新型コロナウイルス感染症の影響により、税収がコロナ禍以前の水準まで回復するには数年を要すると予測されます。

市民サービスの維持・向上に努めながら、将来世代に負担を残さないためには、本市の身の丈に合った財政規模を維持するとともに、計画的な市債管理を行い、持続可能な財政運営を継続していくことが必要です。

今後も、中長期の財政状況を的確に把握しながら徹底した歳入歳出改革を進め、規律ある財政運営に取り組みます。

また、市税等の一般財源収入の大幅な増加が見込めない中、企業誘致や都市計画税の導入など、新たな財源確保の方策を検討しながら、事務の合理化や事業の見直しに努め、持続可能な財政基盤の確立に取り組みます。

---

### 基本方針 3 ICT等の活用による行政サービスの向上と業務効率化

AIやRPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）など様々な技術が急速に普及しており、国においては、マイナンバーカードの活用を始めデジタル社会の形成に向けた取組みが推進されています。

こうしたデジタル化の流れに対応し、積極的にICT（情報技術）を活用することで、限られた経営資源の中で、行政サービスの向上と業務効率化の2つの面で、仕事の質を高める取組みを推進します。

行政サービスの面では、窓口業務の効率化や電子申請の利用拡大など、ICTを活用することで住民の利便性を高める取組みを推進します。

業務効率化の面では、定型業務を始め様々な事務事業においてICTを積極的に活用し、作業時間の短縮や精度の向上を図るとともに、会議の効率化など職員のコミュニケーションツールの活用を推進します。

---

### 基本方針 4 公共施設等総合管理計画の推進と資産の有効活用

市が保有する公共施設等を長期的な視点で管理するため、あま市公共施設等総合管理計画（平成29（2017）年3月策定）や、あま市公共施設再配置計画（平成31（2019）年3月策定）等を策定しています。

これらの計画に基づき、将来を見据えた全市的な公共施設の再配置や長寿命化を進め、ライフサイクルコストを縮減し、公共施設の適正な維持管理を図ります。

また、令和5年5月には新庁舎への移転を予定しています。旧庁舎の解体後の土地や、再配置計画に基づく施設の統廃合後の土地・建物等の資産について、有効な活用策や処分を検討します。

---

## 基本方針 5 組織の活性化と働き方改革の推進

変化する行政需要に対応し、効率的かつ機動的な行政組織を構築するため、組織・機構の見直しを行ってきました。

今後は、限られた人員で、再編後の組織の機能を十分に発揮するため、職員一人ひとりの意識改革や能力向上を図るとともに、女性職員の管理職への積極的な登用など女性の活躍を推進する取り組みや、専門的な行政課題についての的確な対応ができる人材の確保、人事交流の推進など、組織の活性化に取り組めます。

また、業務効率化や職員が能力を発揮できる職場環境づくりの観点から、時間外勤務の縮減やテレワーク環境の活用など、働き方改革に取り組んでいきます。

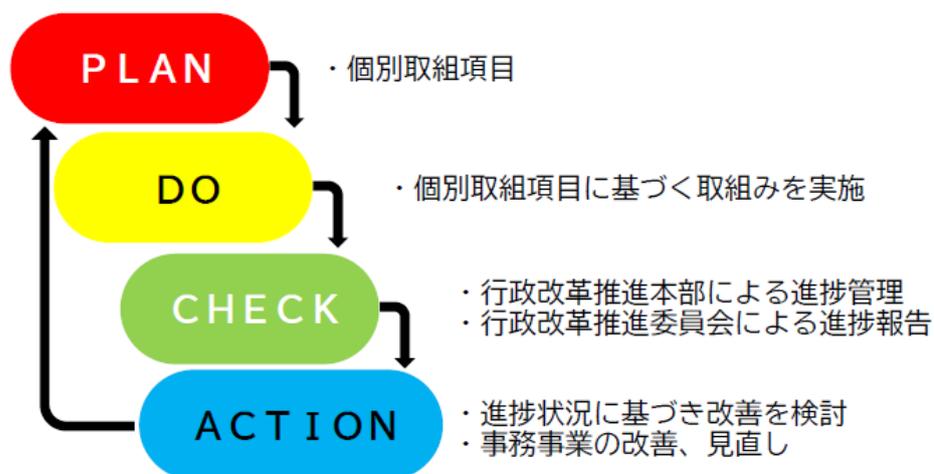
併せて、職員と市民との信頼関係を高め、職員が公正に職務を執行する体制を確保するための取り組みを進めていきます。

### 第3章 計画の推進体制と進捗管理

行政改革の推進にあたっての体制として、市長を本部長とする行政改革推進本部において、全庁体制で取り組んでいきます。

また市政に優れた識見を有する方で構成する行政改革推進委員会において、市民から幅広く意見（パブリックコメントの活用等）を求めるとともに、市からの諮問を受け改革方針等を審議します。

本大綱の取組みを着実に遂行するために、個別取組項目の設定（PLAN）→取組みの実施（DO）→進捗状況の確認・検証（CHECK）→改善・見直し（ACTION）のPDCAサイクルによる進捗管理を毎年度実施します。



なお、取組みの結果につきましては、市公式ウェブサイト等を活用し、広く市民に公表します。